新年のごあいさつ

安城市長
神谷　学

「ケンサチはSDGs」を合言葉に、本年も誰一人取り残さない市政運営にまい進します

―あけましておめでとうございます。
新年あけましておめでとうございます。皆さま、どんなお正月をお過ごしでしょうか。

―昨年はコロナに始まりコロナで幕を閉じました。
市では、新型コロナウイルス感染症対策を最優先に、様々な施策に取り組んだ一年でした。特に、コロナ禍収束の切り札はワクチン接種と考え、市役所の総力を挙げて推進してまいりました。その結果、医療関係はじめ多くの皆さんのご理解ご協力により、本市のワクチン接種を順調に進められましたことを、心より感謝申し上げます。

―東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されましたね。
コロナ禍での開催でしたが、日本人選手をはじめとしたアスリートの皆さんは、我々に新たな勇気と感動を与えてくれました。特にソフトボール競技では、本市に拠点を置く「デンソーブライトペガサス」の川畑・山田両選手が日本代表として出場し、見事に金メダルを獲得されました。その活躍に対して、本市から市民栄誉賞を贈呈いたしました。

―昨年の市政をどう振り返りますか。
昨年は名鉄新安城駅の橋上化、北部学校給食共同調理場の移転整備、本市が支援する安城更生病院の新棟建設等により、市民生活の向上を図ることができました。今春には中心市街地にデンシティという賑わいの拠点が開業する予定です。昨年は緊急事態宣言が繰り返されたにもかかわらず、重要事業を計画通りに進めてくださった皆さんのご尽力に対しまして、心から敬意を表します。

―新年の展望を。
今年は、安城市制施行70周年という節目に当たります。周年のテーマを「ともに、かなえる」とし、国連で採択されたSDGsの「誰一人取り残さない」の理念に沿い、誰もが活躍できる機会の創出を心がけます。特に本市の目指す都市像「健幸都市」と、持続可能な開発目標SDGsとは、到達するゴールは同一ととらえ、「ケンサチはSDGs」の合言葉のもと、将来にわたって、全ての市民が健やかで幸せに暮らせるケンサチまちづくりを進めてまいります。本年が19万市民にとってよき１年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

―あけましておめでとうございます。
新年あけましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

―コロナ禍に見舞われた昨年を、どのように振り返りますか。
昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい、わが国においても大きな危機に直面した年でありました。
市民の皆さまや事業者の皆さまには、外出の自粛、営業の自粛等により、生活面、経済面でさまざまな困難を抱える中でも、マスクの着用等、基本的な感染防止策の徹底にご協力をいただき、心から感謝申し上げます。
また、大きな負担がかかった医療、福祉現場において、日々業務に従事されている皆さまに対しましても、深く感謝申し上げます。医療従事者の皆さまには、ワクチン接種においても大きなお力をお貸しいただき、あわせて感謝申し上げます。

―今後の新型コロナ対策について、また新年の展望について、どのようにお考えですか。
国は、ワクチン接種の推進、治療薬の普及を図るとともに、医療提供体制を確保し、人流抑制等の影響を受けた方々への経済支援を実施すると同時に、ワクチン接種証明等を活用しながら、通常に近い社会経済活動を一日も早く取り戻すことができるよう取り組むとしております。
安城市議会としましても、引き続き感染防止は重視しながらも、今後のポストコロナ時代の流れに乗り遅れることなく、コロナ前の社会経済活動を一日も早く取り戻すことを目指します。そして、私ども安城市議会議員は、それぞれの地域の課題や要望を安城市全体の発展に結び付く政策として発信し、さらなる市民生活の向上に取り組み、活力ある未来を創ってまいりたいと思います。
本年が市民の皆さまにとって幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

安城市議会議長
松尾　学樹

時代は“ポストコロナ”へ コロナ前の社会経済活動を一日も早く取り戻し活力ある未来を創ります